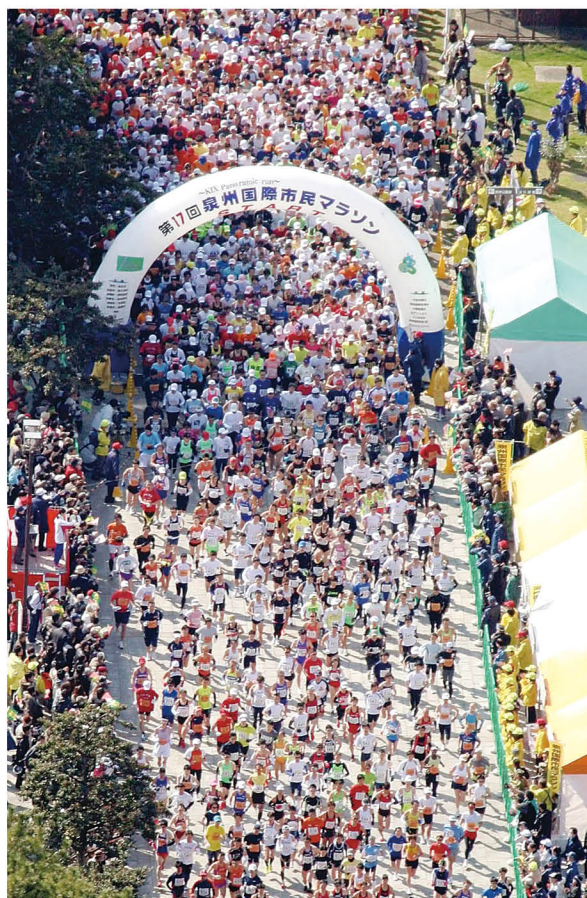


泉州国際市民マラソン 第17回大会 2010年(平成22年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 17th CONVENTIONS



2月21日 日

天 候: 晴れ
気 温: 8.5℃
参加者数: 2,857人
完走者数: 2,138人
沿道人数: 26万人



スタートするランナーたち



力走するトップ集団

今大会は、招待選手に競い勝った一般参加の吉村豊和(大阪陸協)が2時間19分52秒で優勝した。6km付近で森本が抜け出したが慌てずマイペースで力走。36km付近でトップに立ってそのまま逃げ切った。ゴール後「まさか自分が勝てるなんて」と謙虚に語ったが、福岡国際で10位に入賞した実績もある35才である。2位はこの大会で常に上位入賞の宮里康和(信太山自衛隊)が入った。女子は北海道マラソンなど実績があるマラソン歴16年目の田中千洋(アスレックRC・兵庫)が初挑戦で優勝した。40才の田中は2時間41分12秒で谷宏美(兵庫)に1分32秒差をつけた。男女ともに巧みなペース配分でマラソンの奥深さを示した勝利だった。

尚、この大会に2011年開催予定の大阪マラソンスタッフが視察に訪れた。大阪府の担当者は「泉州国際市民マラソンは地元の自治体やボランティアなどが一致団結して運営している素晴らしい大会だ。市民による市民のマラソンとして見習う事が多い」と感想を語った。

写真提供: オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>

約3000人の市民ランナーが力走する第17回泉州国際市民マラソン（読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援）。20日、泉佐野市内のホテルで開かれた開会式では、15大会連続出場の新井・ソングライター高石ともやさんと約450人が健闘を誓い合った。実行委員長の和田吉衛・忠岡町長は「日頃の練習の成果を発揮し、思い出に残る素晴らしい大会にしてほしい」とあいさつ。ランナー代表の入学遼治、岡本幸子両選手が「正々堂々と戦い、各地域の選手たちと愛



宣誓する（左から）入学、岡本両選手（泉佐野市内のホテルで）

泉州マラソン きょう号砲 選手代表、力強く宣誓

と友好の輪を広げる」と力強く選手宣誓した。選手は21日午前11時、堺市の浜寺公園をスタート。泉南市の樽井浜口交差点を折り返し、ゴールのりんくう公園（泉佐野市）を目指す。2時間8分43秒の記録を持つ小島崇幸選手ら国内屈指のランナーのほか、泉州地域の各市町と姉妹（友好）都市提携を結ぶ米岡、豪州、中国などの外国人ランナーも参加する。



音楽隊員の演奏が大会を盛り上げる



選手に大好評の豚汁を準備する自衛隊員

2010年（平成22年）2月21日付朝刊



選手に声援を送る人たち



泉州はロードレースの老舗

誕生の経緯のところで記述したが、現在、京都で開催されている全国高校駅伝競走大会の第1回大会は、昭和25年（1950）12月27日、大阪毎日新聞社前をスタート、石津川折り返し6区間32kmで行われた。その後、コースが延長され、岸和田市折り返しの時代が長く続いた。全国高校駅伝は、昭和36年（1961）12回大会まで大阪泉州路を舞台に行われた歴史があり、当地は高校駅伝の憧れの舞台であったのである。

また、現在は滋賀県琵琶湖畔で開催されている琵琶湖毎日マラソンも、昭和25年（1950）浜寺公園～岸和田城折り返しで始まり、昭和36年（1961）まで続いた。その後、当地の道路事情もあってこれらは中止のやむなきに至った。しかし、長年途切れていたロードレースは、情熱を燃やし続けていた陸上競技関係の人々によって、千亀利ハーフマラソン（昭和63年）として始まり、平成3年2月には泉州・千亀利マラソンが始まった。さらに関西国際空港開港を記念して平成6年（1994）2月20日、第1回目の泉州国際市民マラソンとして発展してきたのである。泉州路でのマラソン大会は実に30年ぶりの復活であったが、このマラソンも今年度で20回大会を数え、確かな歴史を刻んでいる。

楽しみにしている参加者のためにもこの「老舗の暖簾」をはすすわけには行かず、先輩たちの心意気と思い入れを継承しなければならないであろう。

泉州国際市民マラソン20周年記念誌ご挨拶

忠岡町長 和田 吉衛



泉州路の春を呼ぶ大会として親しまれてきました「泉州国際市民マラソン」もお陰さまで第20回の節目を迎えることが出来ましたことを、心よりお慶び申し上げます。

関西国際空港の開港を記念して、泉州はひとつを合言葉にはじめられた本大会も、9市4町の住民団体や協賛各企業の皆さまからの温かいご支援を頂きながら、泉州地域の一大イベントとして広く認知されるまでになりました。

また、各自治体が友好提携する姉妹都市からの外国人招待選手の方々も含め、毎年数多くの参加

者による国際色豊かな大会となり、名実ともに国際大会として育って参りました。

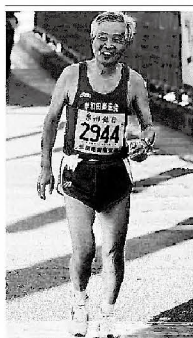
私も第17回、第18回に本マラソン実行委員会の委員長を務めさせて頂きましたが、ランナーと地域の人々との友好の輪が広がり、連帯意識の高揚と新しい地域づくりの中核的な役割を果たしてきたと感じております。

レースにご参加される皆様、ご家族をはじめ地域の方々の多くの声援に背中を押されながら、日頃の厳しい練習の成果が良い結果に繋がりますよう、持てる力を存分に発揮し、精一杯走り抜けて下さい。

結びに、本大会が今後も更に大きな意義を持つ大会に育っていくことをご祈念しますとともに、開催にあたりご尽力賜りました関係者の皆様に対し深く感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



笑顔の完走、悔しいタイム



民事に奔走した村上さん

「マラソンは昔回りましたが、素直な気持ちで、自分もホッタルマラソンなどの参加

浜寺公園では、ランナーが急にスリッパを履き、山崎隊の「負けなで」の演奏に乗って「着に駆け出した。

長女の怜香ちゃん(4)とフイリッパさん(3)は、「マラソンは昔回りましたが、素直な気持ちで、自分もホッタルマラソンなどの参加

春走々 2857人

と話し、また、高齢ながら奮闘した岸和田市の無職、沖上八郎さん(71)は、制限時間(4時間)ギリギリで迎えた。

泉州国際市民マラソン

早春の泉州路を市民ランナーらが駆け抜けた、21日の「第17回泉州国際市民マラソン」(泉州9市4町陸上競技協会、同マラソン実行委員会主催、読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援)。国内外から参加のランナー2857人は、浜寺公園(堺市西区)一りんく公園(泉佐野市)の42.195キロコースで熱戦を展開、沿道の約26万人の観衆は熱い声援を送り続けた。



一斉にスタートするランナーたち(堺市西区の浜寺公園で)＝本社へりから



ランナーをねぎらう西田さん

ボランティアーら心で音で支えるランナーにタオルや飲み物を渡し、「お疲れさま」とねぎらった市民ボランティアーの堺市の主婦石田美千子さん(71)は、自身もホッタルマラソンなどの参加

35歳・吉村初優勝

一般参加 女子は田中

陸上・第17回泉州国際市民マラソン（21日・堺市堺区公園）大阪府堺市野市りんくう公園（読売新聞大阪本社など後援）――国内外の招待選手を含む約600人（女子は330人）が参加して行われ、男子は一般参加の吉村豊和（大阪陸協）が、時間19分52秒で優勝。女子は一般参加の田中千洋（兵庫陸協）が、時間41分12秒で制した。

泉州マラソン



男子で優勝した吉村豊和

■「まさか勝てる」とは、け出した後も、慌てずに自分のペースで追い、36分付近でトップに立った。一般参加ながら2002年の福岡国際で10位に入った実績額を見せた。

■森本失速、いい経験に 特別招待選手の森本直人（山陽特殊製鋼）は序盤は独走状態、トップを走りながら失速し、16位に終わった。これが初マラソンで思いきり「行こう」と6分付近で飛び出たが、30分過ぎに足が動かなくなり「マラソンは後進、勝負と聞いていたが本当にしんどかった。いい経験になった。上書き表情で振り返った。

■初挑戦で栄冠 女子初優勝の田中は「男子の吉村選手とは知り合いなので、アベック優勝、出来て良かった」と喜んだ。マラソン歴16年目の40歳。大会前に左足をねん挫し、微熱が出て体調は十分ではなかった。それでも大会初挑戦で栄冠を射止めた。「優勝したら、（7月の）泉州ゴールドコーストマラソンに出場出来るのでうれしい」と笑顔を見せた。

2010年（平成22年）2月22日付朝刊



ランナーにタオルをかけるボランティア

スカイブリッジからマリブリッジに向かうランナー



写真提供：オールスポーツコミュニティ <http://allsports.jp/>



手をつないでゴールする春名隆史さんと長女の怜香ちゃん



優勝
第17回大会

男子

大阪陸協

吉村豊和

女子

兵庫陸協

田中千洋

